

令和 7 年度

事 業 報 告 書

社 会 福 祉 法 人 秋 葉 会

目 次

I	法人事業総括	1
II	事業成果の内容	2
III	法人設置経営者	2
IV	法人事業の沿革	3
V	法人施設ならびに事業所の概要	5
VI	理事会および評議員会	5
	1. 理事・評議員・監事	
	(1) 理事	
	(2) 評議員	
	(3) 監事	
	2. 理事会	
	3. 評議員会	
	4. 監査実施状況	
VII.	法人事業報告	7
	1. 実地指導等報告	
	2. 職員の状況	
	(1) 八戸地域福祉事業部門	
	(2) 上北地域福祉事業部門	
VIII.	事業所報告	9
	1. 八戸地域福祉事業部門	
	(1) 障がい者支援施設 八太郎山療護園	
	(2) 児童デイサービスセンター希望ヶ丘	
	(3) 居宅介護支援・相談支援事業所 八太郎山の家そうだん室	
	(4) 八太郎山の家 ヘルパーステーション	
	(5) 八太郎山の家 訪問看護ステーション	
	(6) 身体障害者向け住宅・有料老人ホーム 八太郎山の家	
	(7) グループホーム桔梗野の家	
	(8) 障がい者デイサービス 根城の家	
	(9) 障がい者デイサービス リアンジュ	
	(10) 多機能型通所支援事業所 リアンジュ	
	2. 上北地域福祉事業部門	
	(1) 特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ	
	(2) デイサービスセンターサンポエム	
	(3) 彩香園アルテリーベ 居宅介護支援事業所	
	(4) グループホーム 青い空	

IX. 活動報告	28
1. 行動（行事）報告	
（１）八戸地域福祉事業部門	
（２）上北地域福祉事業部門	
2. 設備修繕報告	
（１）八戸地域福祉事業部門	
（２）上北地域福祉事業部門	
3. 研修報告	
（１）八戸地域福祉事業部門	
（２）上北地域福祉事業部門	
X. その他の取組み報告	38
1. 苦情報告	
（１）八戸地域福祉事業部門	
（２）上北地域福祉事業部門	
2. 地域貢献・地域交流	
XI. 健康管理報告	39
1. 職員福利厚生	
（１）健康診断	
（２）予防接種	

I 法人事業総括

令和 7 年度は終わりの見えない戦争、暮らしを揺るがす経済の不安、そして自然災害の多発等様々な問題を抱えた激動の一年であった。

今年度は人手不足が恒常化し、人材確保の困難さが増している状況であることを実感する 1 年となった。また、経験の長い職員の退職により、世代交代を見据え若手育成に力を注ぐ 1 年になった。厳しい人員配置の中で、利用者の生活、健康、心を守る事を最優先し、業務体制を工夫し職員同志が励まし協力し合いながら日々心尽くして職務を熟すことに全力で努めた。また、職員確保のための情報を漏らすことなく収集し、事態への早急な解決へと取り組んだ。そして次年度も継続し体制を整える事により一層努めていく。

最大の経営資源である人材の確保・育成は安定的な事業運営に欠かせないため、将来を見通した法人経営を確立するため、昨年に続き法人施設の中長期に渡る「経営 計画の策定」を視野に入れ、各拠点での役職者との毎月の会議、年 3 回の法人全体での会議を行った。

八太郎山療護園にて第 1 回目の地域連携推進会議を開催し、利用者家族代表、町内会長、他事業所デイサービス管理者を招き、地域と連携して何が出来るのか意見交換を実施した。今後に向けて回を重ね地域との交流をさらに深めていく。

令和 7 年 12 月青森県東方沖地震の時には、八戸市指定福祉避難所として避難所を開設し要配慮者 1 名受け入れた。今後の被災時に備え、対応マニュアルに添って地域の皆様との連携を強化していく。

八戸地域福祉事業部門八太郎山療護園で第 47 回東北ブロック身体障害者施設職員研修会の主管施設を担い、東北ブロック 43 施設 126 名参加による研修会を開催し、関係諸機関並びに職員の協力のもと、無事終える事が出来た。

会計事務の仕組みが複雑に変化する中で、経理規程等に基づいた適正な財務管理を行い、施設の事業予算の執行状況を適宜把握しながら、法人全体の経理を管理した。

上北地域福祉事業部門では、例年同様、地元の小中学校に認知症サポーター養成講座として職員を派遣、その他幅広い対象として、職場体験学習や介護実習・ボランティアの受け入れを積極的に行った。また、彩香園を中心として外国人介護職員としてインドネシアから特定技能生を採用し、総合介護ソフト、AI 音声入力アプリ、非接触型見守り支援システムの導入と合わせ、職員の業務負担の軽減に繋がり、利用者と職員がゆったりと向き合える時間を増やすことが可能となった。

今後も各事業所の職員と「現在、これからの問題や課題」を共有し、共同し合いながら、法人の理念が現場で機能するための具体的アクションを定め実行する。

法人の基本理念「主観的幸福感の追求」に基づき、利用者主体の「普遍化」と「個別化」を基本としたサービスの提供に努め社会福祉法人としての使命、地域の社会福祉施策の一翼を担う存在としてその役割を担っていく。

Ⅱ 事業成果の内容

1. 法人の基本理念と基本方針の再確認について

職員に対しては施設内研修、新規学卒並びに中途採用者に対してはオリエンテーションを通じて周知に努めた。今後も機会ある毎に折にふれ、継続した周知徹底を図りたい。

2. 法人職員の明るい環境作りについて

老人福祉事業並びに障害福祉事業のいずれにおいても、それぞれの現場における問題提起とその改善策についての話し合いの機会を設け、その結果が現場に反映されるよう努めた。また、福利厚生の一環として法人職員親睦会にて企画した職員旅行の実施と職員の心身のリフレッシュの機会となるよう連続有給休暇の取得促進を図った。

3. 介護保険制度並びに障害者総合支援法の調査研究について

毎月、法人内施設・事業所の所長クラス並びにレセプト担当職員にて構成する「運営会議」を開催し、それぞれの施設及び事業所の毎月の利用状況についての報告の機会を設け、介護保険並びに障害者総合支援法の法改正を見込んでの具体的な経営運営上のシミュレーションを行い、経営上の課題分析や事業運営についての検討を図った。

4. サービスの質の向上・充実について

法人内施設・事業所・部署毎に毎月、施設内研修を実施し、老施協並びに身障協等で主催する施設外研修についても可能な限りの参加を推進した。特養、デイサービス、グループホームおよび障がい者支援施設のいずれについても介護相談員又はオンブズマン（第三者委員）の毎月の受け入れ、さらに青い空、桔梗野の家のグループホームについては、県老施協の外部評価、そして全施設・事業所において、介護サービス情報の公表制度の受け入れ・実施を図り、ケアサービスの向上に向けての職員の動機付けを行い、業務改善並びに新しい取り組みについて実施、充実に努めた。

5. 地域福祉交流の促進について

老人福祉事業部門、障害福祉事業部門のいずれも保育園児を対象とした行事の余興依頼、小中高生並びに近隣住民を含む一般ボランティアの積極的な受け入れと地域行事に対して職員のボランティア派遣、施設建物の無料開放等、例年同様に福祉施設の理解の拡充に努めた。今後も法人各施設並びに事業所について地域コミュニティのさらなる発展に貢献できるよう地域住民とのより一層の積極的な交流を図りたい。

Ⅲ 法人設置経営者

社会福祉法人 秋葉会 理事長 高橋 奈々子

法人本部 青森県八戸市大字河原木字八太郎山3番138

IV 法人事業の沿革

平成 04 年 03 月 30 日	社会福祉法人秋葉会設立認可
平成 05 年 04 月 01 日	特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ開設（50 名）
04 月 01 日	〃 ショートステイ開設（04 名）
平成 05 年 07 月 01 日	デイサービスセンターサンボエム開設（B 型）
平成 12 年 02 月 01 日	彩香園アルテリーベ訪問看護ステーション開設
04 月 01 日	彩香園アルテリーベ居宅介護支援事業開設
06 月 01 日	デイサービスセンターサンボエム定員増（1 日の利用定員 30 名）
10 月 23 日	グループホーム青い空開設（09 名）
平成 14 年 04 月 01 日	彩香園アルテリーベ在宅介護支援センター開設（旧上北町委託）
04 月 01 日	デイサービスセンター桔梗野の家開設（1 日の利用定員 20 名）
04 月 01 日	グループホーム桔梗野の家開設（09 名）
04 月 01 日	居宅介護支援事業所桔梗野の家開設
06 月 01 日	デイサービスセンターサンボエム定員増（1 日の利用定員 35 名）
平成 15 年 05 月 01 日	デイサービスセンターサンボエム定員増（1 日の利用定員 40 名）
10 月 01 日	身体障害者療護施設八太郎山療護園開設（40 名）
10 月 01 日	〃 ショートステイ開設（04 名）
10 月 01 日	児童デイサービスセンター希望ヶ丘開設（1 日の利用定員 10 名）
平成 16 年 07 月 01 日	身体障害者療護施設八太郎山療護園ショートステイ定員増（06 名）
平成 17 年 05 月 10 日	八太郎山居宅支援センター開設 （障害者ショートステイ 8 名、障害者デイサービス 1 日の利用定員 15 名、障害者向け住宅 30 部屋、居宅介護・訪問介護事業）
05 月 10 日	八太郎山居宅支援センター訪問看護ステーション
平成 17 年 06 月 01 日	八太郎山居宅支援センター ショートステイ定員増（16 名）
06 月 16 日	居宅介護支援事業所桔梗野の家、八太郎山居宅支援センター内へ事務所移転
平成 18 年 04 月 01 日	特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ ショートステイ定員増（14 名）
04 月 24 日	デイサービスセンターサンボエム移転（本体建物増築）
10 月 01 日	彩香園アルテリーベ ヘルパーステーション開設
10 月 01 日	身体障害者向け住宅 コレクティブハウス彩香園アルテリーベ 1 号館開設（20 部屋）
平成 19 年 04 月 01 日	居宅介護支援事業所桔梗野の家 グループホーム桔梗野の家内に事業所移転
平成 20 年 03 月 09 日	身体障害者向け住宅 コレクティブハウス彩香園アルテリーベ 2 号館開設（4 部屋）
平成 23 年 10 月 01 日	八太郎山療護園 障がい者支援施設（生活介護・施設入所支援）へ移行
平成 24 年 04 月 01 日	児童デイサービスセンター希望ヶ丘 放課後等デイサービスへ移行

平成 24 年 07 月 01 日	特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ増床（52 名）
平成 25 年 09 月 01 日	グループホーム青い空増床（18 床）
平成 26 年 06 月 01 日	八太郎山療護園 特定・障害児相談支援事業
平成 27 年 08 月 01 日	児童デイサービスセンター第二希望ヶ丘開設（10 名）
平成 28 年 12 月 15 日	障がい者デイサービス根城の家開設（20 名）
平成 30 年 05 月 01 日	名称変更 八太郎山居宅支援センター ⇒ 八太郎山の家（住宅・有料老人ホーム） 〃（ヘルパー） ⇒ 八太郎山の家 ヘルパーステーション 〃 訪問看護ステーション ⇒ 八太郎山の家 訪問看護ステーション 移転および名称変更 居宅介護支援事業所 桔梗野の家 八戸市市川町字桔梗野 15-7 相談支援事業所 八太郎山療護園 八戸市河原木字八太郎山 3-138 ⇒ 居宅介護支援・相談支援事業所 八太郎山の家 そうだん室 八戸市河原木字八太郎山 3-140
令和 01 年 05 月 01 日	八太郎山療護園日中一時支援事業開設（委託：八戸市、他）
令和 02 年 06 月 01 日	八太郎山療護園生活介護定員増（50 名）
令和 03 年 01 月 01 日	児童デイサービスセンター希望ヶ丘 児童発達支援事業開設
令和 04 年 01 年 31 日	児童デイサービスセンター第二希望ヶ丘休止
令和 04 年 02 月 01 日	障がい者デイサービス リアンジュ開設（20 名） 多機能型通所支援事業所リアンジュ開設（10 名） 八太郎山療護園生活介護定員増（60 名）
令和 04 年 06 月 30 日	児童デイサービスセンター希望ヶ丘 児童発達支援事業廃止
令和 04 年 09 月 30 日	児童デイサービスセンター第二希望ヶ丘廃止
令和 05 年 04 月 30 日	デイサービスセンター桔梗野の家休止
令和 06 年 03 月 31 日	デイサービスセンター桔梗野の家廃止 住宅型有料老人ホーム コレクティブハウス彩香園アルテリーベ廃止
令和 06 年 04 月 01 日	特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ増床（66 名） 短期入所生活介護事業所 コレクティブハウス彩香園アルテリーベ 開設（20 名）
令和 06 年 06 月 30 日	彩香園アルテリーベ 訪問看護ステーション休止 彩香園アルテリーベ ヘルパーステーション休止
令和 06 年 08 月 31 日	彩香園アルテリーベ 訪問看護ステーション廃止 彩香園アルテリーベ ヘルパーステーション廃止

V 法人施設並びに事業所の概要

名 称	敷地面積	建物面積
特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ	18,637.51 m ²	※3,162.72 m ²
デイサービスセンターサンポエム		
グループホーム青い空		596.64 m ²
コレクティブハウス彩香園アルテリーベ		802.42 m ²
グループホーム桔梗野の家	1,344.82 m ²	283.21 m ²
八太郎山療護園	19,076.09 m ²	※2,320.13 m ²
児童デイサービスセンター希望ヶ丘		259.00 m ²
八太郎山の家		※1,945.28 m ²
八照庵（八太郎山療護園生活動作訓練棟）		183.00 m ²
障がい者デイサービス根城の家	453.81 m ²	833.98 m ²
障がい者デイサービス リアンジュ	1,559.00 m ²	585.87 m ²
多機能型通所支援事業所リアンジュ		

※はいずれも機械室を含んだ面積

VI 理事会および評議員会

1. 理事・評議員・監事

(1) 理事

理事長 高橋奈々子

理事 工藤雅之 石和英夫 高橋史章
菊池真夕子 池田哲人

(2) 評議員

駒ヶ嶺祥子 中野渡むつ子 壬生寿子
畑中義信 上館唱二 工藤文雄

(3) 監事

名久井信平 島守雅之

2. 理事会

- (1) 第1回理事会 令和7年6月7日 秋葉会本部他オンライン
- 第1号議案 令和6年度決算(案)について
 - 第2号議案 令和6年度事業報告書(案)について
 - 第3号議案 理事・監事・評議員の選任について
 - 第4号議案 令和7年度第1次補正予算(案)について
 - 第5号議案 物品購入等について
 - 第6号議案 令和6年9月～令和7年3月理事長等業務執行状況報告について
 - 第7号議案 法人諸規定の一部改正(案)について
 - 第8号議案 評議員選任・解任委員会の開催について
 - 第9号議案 定時評議員会の開催について
- (2) 第2回理事会 令和7年6月28日 八戸グランドホテル
- 第1号議案 理事長の選定について
- (3) 第3回理事会 令和7年11月8日 秋葉会本部他オンライン
- 第1号議案 令和7年度第2次補正予算(案)について
 - 第2号議案 物品購入等について
 - 第3号議案 令和7年4月～9月理事長等業務執行状況について
 - 第4号議案 法人諸規定の一部改正(案)について
- (4) 第4回理事会 令和8年3月7日 秋葉会本部他オンライン
- 第1号議案 令和7年度第3次補正予算(案)について
 - 第2号議案 令和8年度事業計画(案)について
 - 第3号議案 令和8年度当初予算(案)について
 - 第4号議案 法人諸規定の一部改正(案)について
 - 第5号議案 八太郎山療護園施設長の就任について
 - 第6号議案 物品購入等について
 - 第7号議案 評議委員会の開催について

3. 評議員会

- (1) 第1回評議員会 令和7年6月28日 八戸グランドホテル
- 第1号議案 令和6年度決算(案)について
 - 第2号議案 令和6年度事業報告書(案)について
 - 第3号議案 理事・監事・評議員の選任について
- (2) 第2回評議員会 令和8年3月21日 秋葉会本部他オンライン
- 第1号議案 令和7年度第3次補正予算(案)について
 - 第2号議案 令和8年度事業計画(案)について
 - 第3号議案 令和8年度当初予算(案)について

4. 監査

- (1) 監査 令和8年5月29日
- 事業報告等の監査、計算関係書類及び財産目録の監査

VII. 法人事業報告

1. 実地指導等報告

本年度はなし

2. 職員の状況

(1) 八戸地域福祉事業部門（令和8年3月31日）

職種	年齢別人数（人）			合計
	10代～20代	30代～40代	50代以上	
施設長等	0	0	2	2
サービス管理責任者	0	1	2	3
児童発達支援管理責任者	0	2	0	2
介護職員	5	27	9	41
介護支援専門員	0	2	0	2
看護職員	1	4	5	10
理学療法士・作業療法士	0	5	0	6
管理栄養士・栄養士	0	1	0	1
生活相談員	0	1	0	1
保育士	2	0	0	2
児童指導員	0	1	1	2
調理員	0	1	3	4
事務員	2	3	0	5
非正規雇用者	3	17	16	36
			全職員	117

(2) 上北地域福祉事業部門（令和 8 年 3 月 31 日）

職種	年齢別人数（人）			合計
	10 代～20 代	30 代～40 代	50 代以上	
管理者	0	0	1	1
介護職員	1	3	3	7
介護福祉士	3	26	9	38
介護支援専門員	0	2	3	5
社会福祉士	0	1	1	2
看護師・保育士	1	3	4	8
機能訓練指導員	1	2	2	5
管理栄養士・栄養士	1	0	1	2
調理員	3	5	2	10
事務員	0	1	2	3
その他職員	0	0	0	0
非正規職員	0	3	24	27
			全職員	108

Ⅷ. 事業所報告

1. 八戸地域福祉事業部門

(1) 障がい者支援施設 八太郎山療護園

ア. 総評

(ア) 生活介護・施設入所支援

㊦生活支援 生活相談 主任サービス管理責任者 松本智和

施設入所者の重度化や高齢化に伴い、昨年度と同様に長期入院や受診が多くみられた。退院直後にご逝去された方もいた。在宅生活介護利用者でも誤嚥性肺炎により長期入院された方もいたが、今年度は感染症クラスターの発症が無かったため稼働率は微増となった。(施設入所で 1.4%、生活介護で 3%増加。)

その様な状況下で 12 月 8 日に発生した震度 6 強の「青森県東方沖地震」の際には八戸市より依頼を受け、福祉避難所として 1 名受け入れを行った。普段の利用者の生活だけではなく、有事の際に安心して避難できる場所という意味でも、とても重要な立ち位置に居る事を再確認する事が出来たと思う。今後も日々の状態観察や日常生活支援、感染症対策、事故予防等を行う中で体調の安定化を継続すると共に、現在の ADL に即した介助方法の検討や対応の見直し、職種間協働で連携を図りながら、より良いサービス提供に繋げていきたいと考える。

㊧機能訓練 副主任理学療法士 下舘麻未

利用者のニーズや希望、身体機能に合わせ週 2 回程度個別での機能訓練を行い身体機能維持・向上、日常生活動作の維持、生活の質向上に努めた。各種会議への参加、多部署との情報共有、必要に応じてポジショニングや福祉機器の使用方法等について資料作成を行い生活場面へと繋げることもできていた。また、専門業者と連携し、車いす・装具の新規作成の他、その他福祉機器のメンテナンスを定期的実施し、環境面での安全維持に努めた。今後も訓練を通し利用者の体調確認、生活面での困り事等聞き取りを行いつつ介入し、生活の質を維持できるよう取り組んでいく。

㊨給食 主任調理員 村山宗久

今年度は調理員が 1 名根城の家へ異動となったため、人員不足となってしまった。そのため管理栄養士に月 10 日程度調理業務に従事してもらうこととなった。リクエストメニューなどの手作りメニューも従来ほど取り組むことが出来ず、また外出行事などもほとんど出来なかったため、利用者様の楽しみが減ってしまう結果となった。

災害時用の備蓄品の賞味期限の関係で、BCP 訓練として食事提供を行った。調理員や支援員の訓練にもなるため、今後も機会を見て行っていく予定である。

2 月には調理員 3 名がコロナ感染となった。幸い全員同時ではなかったため最悪の事態は免れたが、今後同じことが起きないように各自注意して行動していきたい。また根城の家、リアンジュとも引き続き連携が取れるよう取り組んでいきたい。

㊟給食 管理栄養士 金濱道子

大きな変化としては、調理員の異動等に伴い現場内作業が生じる為、令和 7 年 5 月より栄養ケアマネジメントの実施が停止となった。

献立に関してはあおもりコープフーズの献立上、栄養素に関して微量栄養素が不足しがちなので、その日の献立によって不足する栄養素を補うように補助食品を献立に組み込んでいる。また、食事形態によっても不足する栄養素が違うので、それぞれ充足出来るような補助食品を選択した。全般的には蛋白質・カルシウム・鉄・ビタミン B1・ビタミン B2・ビタミン C が不足することが多かった。低栄養の場合、アルブミンの他にヘモグロビンや HDL コレステロールの低下もみられるようになるので、蛋白質の他に鉄や鉄の吸収を高めるビタミン C も過不足ない様に補助食品で調整をしている。

今年度は新たな取り組みとして備蓄食品の入れ替えも兼ねて賞味期限の早い物から使用し、不測の事態を想定した BCP 訓練を年に 2 度実施した（災害時にガスと水道は使用可能との事で電気が使えない想定）。結果としては、刻み食とミキサー食の二次加工が必要だったので、刻み食とミキサー食用に出来るだけ加工無しで使用可能な商品を取り入れ随時変更の検討が必要である。献立に関しては現在準備している災害用献立のように数品を弁当盛り対応ではなくて、井盛りのように一品で完成出来るような簡易的な献立の方が手間がかからず向いているのではないかと思う。

(イ) 短期入所 主任サービス管理責任者 松本智和

施設入所者の高齢化や重度化により短期入所の受け入れに関しては、慎重に行なわなければいけない状況が続いていたが、感染症クラスターの発症が無かったため前年度稼働率 30.5%から、今年度は 36.3%と微増している。新規契約に関しては 6 件となった。今までは根城の家生活介護利用者やリアンジュ生活介護利用者の利用希望が多かったが、今年度はそれ以外に就労継続支援 B 型を利用されている方の相談員からの問い合わせも増え、利用に繋がっている。今後も法人内各事業所間や各相談支援事業所と連携や情報共有を図り、より良いサービス提供に繋げていきたいと考える。

イ. 利用者状況

(ア-1) 施設入所支援（令和 8 年 3 月 31 日現在）

・施設入所契約者：40 名

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
延べ人数	1,190	1,209	1,160	1,240	1,239	1,200	
1 日平均	39.7	39	38.7	40	39.9	40	
稼働率	99.2%	97.5%	96.6%	100%	99.9%	100%	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
延べ人数	1,218	1,140	1,153	1,128	1,058	1,240	1,181
1 日平均	39.3	38.0	37.2	36.4	37.8	40.0	38.8
稼働率	98.2%	95.0%	93.0%	90.9%	94.5%	100%	97.1%

(ア-2) 生活介護支援（令和 8 年 3 月 31 日現在）

・在宅生活介護契約者：10 名

・生活介護契約者：40 名

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
在宅	117	114	109	120	103	113	
施設	871	897	850	920	919	880	
延べ人数	988	1,011	959	1,040	1,022	993	
1 日平均	44.9	44.0	43.6	45.2	44.4	45.1	
稼働率	87.9%	91.5%	88.9%	92.2%	88.8%	90.2%	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
在宅	113	98	114	116	97	118	111
施設	904	837	856	841	754	987	876
延べ人数	1,017	935	970	957	851	1,015	987
1 日平均	44.2	42.5	42.2	41.6	42.6	44.1	43.7
稼働率	88.4%	86.7%	86.0%	83.2%	85.1%	88.3%	88.1%

(イ) 短期入所（令和 8 年 3 月 31 日現在）

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
延べ人数	66	70	61	72	70	62	
1 日平均	2.2	2.2	2.0	2.3	2.2	2.0	
稼働率	36.6%	37.6%	33.8%	38.7%	37.6%	34.4%	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
延べ人数	71	65	70	72	57	61	66.4
1 日平均	2.2	2.1	2.2	2.3	2.0	1.9	2.1
稼働率	38.1%	36.1%	37.6%	38.7%	33.9%	32.7%	36.3%

(ウ) リハビリテーション実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
施設入所	405	384	362	167	165	166	
外部生活介護	76	65	59	31	27	28	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
施設入所	167	150	274	312	288	268	259
外部生活介護	33	25	48	50	50	40	44

(2) 児童デイサービスセンター希望ヶ丘

ア. 総評

(ア) 放課後等デイサービス 児童発達支援管理責任者 久慈沙織

今年度は昨年度と比較し、延べ163人下回った。要因として、毎日利用している児童の手術による入院が、1ヶ月間の児童1名、3か月半の児童1名、家庭都合による12月からの入所が1名、計3名の長期休みが主である。また、はまなす医療療育センターにて1～2週間程度の集中訓練が3名、3ヶ月に1度のペースで行われていることも原因のひとつと考えられる。契約児童については9月から1名の新規利用、令和8年3月第一養護学校卒業に伴う退所が1名となっている。利用相談については、近隣の小学校に通う児童や遠方からの問い合わせもあり、今後も送迎や職員配置等踏まえながら対応していきたい。

行事や療育プログラムの見直し、職員への周知を行った1年となった。ご家族への周知が不十分な部分もあるので次年度への課題として取り組んでいく。今年度は夏休み中に親子レクを行うことができ、ご家族同士の交流を深めることができた。アンケートをもとに毎年取り組めるようにしていく。

(イ) 日中一時支援 児童発達支援管理責任者 久慈沙織

毎月ではないが、ご家族の都合により1名が利用している。今後ご家族のニーズに合わせレスパイト支援を含めた取り組みを行っていく。

イ. 利用者状況

(ア) 放課後等デイサービス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	144	163	154	131	124	136	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
延べ人数	168	145	144	135	153	146	145.25

(イ) 日中一時支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	0	1	0	2	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
延べ人数	0	0	0	1	0	0	0.33

(3) 居宅介護支援・相談支援事業所 八太郎山の家そうだん室

ア. 総評 主任介護支援専門員、相談支援専門員 中島貴光

職員の異動により、令和7年10月から2名から1名体制となっている。それに伴い、彩香園アルテリーベ居宅介護支援事業所や外部事業所の協力を得て、担当する件数を調整している。現在の体制においても適切にケアマネジメントをこなし、そうだん室としての役割を果たせるように居宅介護支援と特定相談支援（障害児相談支援）の件数を今後も調整していく方針。介護保険と障害福祉サービスに対応できる強みを活かしながら更なる経験を重ね、利用者やその家族がインフォーマルな支援や各制度を利用しながら、各々の住まいにおいて可能な限り利用者自身の望む生活を実現できるように支援していきたい。

イ. 利用者状況

【介護保険】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要支援事業対象	7	7	7	7	7	0	
要介護1	7	7	7	7	7	4	
要介護2	17	16	17	16	15	13	
要介護3	10	9	9	8	8	8	
要介護4	7	7	7	8	9	8	
要介護5	7	6	6	6	6	6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
要支援事業対象	0	0	0	0	0	0	2.9
要介護1	3	3	3	2	2	2	4.5
要介護2	9	8	8	9	9	10	12.2
要介護3	5	5	5	5	5	5	6.8
要介護4	5	6	5	5	4	4	6.2
要介護5	1	1	1	2	2	2	3.8

【相談支援】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
障害者	16	11	13	14	11	12	
障害児	0	0	0	0	0	1	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
障害者	12	8	8	13	9	11	11.5
障害児	0	0	0	0	1	0	0.16

(4) 八太郎山の家 ヘルパーステーション

ア. 総評 管理者 畠山裕介

本年度は有料老人ホームの入退居に伴い、サービス終了 5 名、新規契約 5 名という実績であった。

人員配置については慢性的な不足状況が続いており、現場の業務負荷軽減においては依然として課題を残している。一方で、昨年度より推し進めている新体制下での「働きやすい職場環境の整備」については、着実な進展を見せている。引き続き、職員の心身の状況を客観的に把握し、実態に即したフォローアップを徹底していく。

次年度においては、現在の安定稼働を基盤としつつ、利用者一人ひとりがその人らしく安心して暮らせるようサービスの質的向上を追求する。また、事業運営の最重要課題として「人材の定着（離職防止）」を掲げるとともに、介護職員等処遇改善加算等の新たな算定を通じた収益基盤の強化を進めていきたい。これにより、経営の安定化と職員の処遇改善を両立させ、持続可能かつ安定的なサービス提供体制の構築を目指していく。

イ. 利用者状況

【居宅介護】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
利用者数（人）	15	15	15	15	15	15	
延訪問件数（件）	741	753	738	729	751	741	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
利用者数（人）	14	14	15	14	15	15	14.8
延訪問件数（件）	759	742	759	750	697	757	743.1

【訪問介護】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
利用者数（人）	29	27	27	27	29	29	
延訪問件数（件）	1,089	1,085	1,030	1,065	1,102	1,080	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
利用者数（人）	30	30	29	30	31	30	29.0
延訪問件数（件）	1,044	1,044	972	1,000	949	1,019	1040

(5) 八太郎山の家 訪問看護ステーション

ア. 総評 主任看護職員 大野美華子

今年度は有料老人ホームの入退居に伴い、サービス終了者・新規契約者共に5名であった。サービス終了者は看取り・急変による搬送後の永眠・生活保護関係で退居している。特に、急変した利用者様のご家族様が遠方在住で、連絡がつきにくいことに加え、ケアや対症療法に対しての強い希望があったことで、病状が安定せず救急搬送したケースがあった。施設に入居していることで安心していらっしゃるご家族様は多い。健康で安心した療養生活を送るためには、入居時に連絡体制を整えておくこと、また、状態変化時には速やかにご家族様へ連絡し、状況を共有することが重要であると改めて理解した。

また、入院者は年間5名と少ないが、1名は褥瘡の悪化により入院期間が長期となってしまった。利用者様本人の強い希望があり、早急な受診に繋げることができなかったことが原因と考えられる。医療に携わる看護師として、利用者様やご家族様へ理解していただけるような、コミュニケーションスキルを習得することが今後の課題である。今後も、日常生活に関わる介護職員、ご家族様と連携しながら、異常の早期発見・早期受診、サービスの質の向上に努めていきたい。

イ. 利用者状況

【医療】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数（人）	15	14	15	14	14	14	
延訪問件数（件）	261	261	261	259	259	253	
平均訪問件数（件／人）	17.4	18.6	17.4	18.5	18.5	18	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数（人）	13	13	13	14	14	14	13.9
延訪問件数（件）	229	225	230	247	237	261	248.5
平均訪問件数（件／人）	17.6	17.3	17.6	10.5	16.9	18.6	17.8

【介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数（人）	24	22	23	23	24	24	
延訪問件数（件）	257	256	243	257	254	256	
平均訪問件数（件／人）	10.7	11.6	10.5	11.1	10.5	10.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
利用者数（人）	27	27	25	26	26	25	24.6
延訪問件数（件）	291	281	285	280	256	278	266.1
平均訪問件数（件／人）	10.7	10.4	11.4	10.7	9.8	11.1	10.8

(6) 身体障害者向け住宅・有料老人ホーム 八太郎山の家

ア. 総評 管理者 西村貴志

本年度の入退居状況は、退居者 5 名、新たな入居者が 5 名であった。感染症については、事業所内での発生事例はあったものの、部会を中心とした感染対策の徹底により大規模な集団感染には至らず、安全な生活環境を維持することができた。

行事については、外出行事の回数を前年度より増やし、入居者の要望を取り入れた外食行事等も実施することができた。これらを通じて、入居者の生活における気分転換や満足度の向上を図ることができたと考えている。来年度も、入居者が日々の生活の中で楽しみを感じられる企画を継続していきたい。

業務効率化と質の向上については、IT・AI ツールの導入により事務作業等の効率化が進み、職員が入居者と直接向き合い、本来の介護業務に充てる時間を増やすことができた。また、業務改善の一環として、職員向けの各種アンケートの実施、個別面談、および内部研修を定期的に行い、現場の課題把握と組織運営への反映に努めた。

来年度は、これらの取り組みを基盤として、最重要課題である「離職防止」と「サービスのさらなる向上」に注力していく。職員一人ひとりが高い倫理観と専門性を持ち、入居者の尊厳を守りながら、安全・安心な生活を提供できるよう、引き続き働きやすい職場環境の整備と教育体制の充実に努めていきたい。

イ. 利用者状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
入居実人数	42	40	40	40	40	40	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
入居実人数	43	43	42	42	42	41	41.3

(7) グループホーム桔梗野の家

ア. 総評 主任介護員 中村いく子

利用状況は2名の退居があり、どちらも空室期間が発生した。待機入居者は20名程度。毎月空所の問い合わせや申し込みがあり、現代社会ではグループホームが必要とされている状況であると感じた。利用者の平均年齢は89.6歳、平均介護度は2.7と昨年より少し上がっており、今後ADLの低下や重度化していくことが予想される。事業所内で心理的虐待が起きたことが明らかになり、これを受けて虐待に繋がった背景について振り返りを行い、青森県認知症介護指導者：池田様に研修を行っていただいた。事業所としても、利用者をコントロールしようとしない、コントロールすべきなのは自分の感情、という方針を管理者から伝え、取り組むことにしている。普段の活動として、調理や掃除、洗濯干し・洗濯たたみなど利用者と職員が一緒に行ったりし、職員が手を出し過ぎない介護を心掛け利用者の残存機能の維持・向上を図るよう取り組んだ。行事では外出の機会を作り、外の景色や空気にふれることで気分転換を図ることができた。

地域交流では「おもてなしカフェ」において(株)中居青果様の野菜果物および藤沢製菓様のお菓子販売などを開催し、多くの地域の方に足を運んでもらい喜んでいただいた。また、桔梗野小学校6年生が訪問し、歌や演奏を披露してくれたり利用者と昔ながらの遊びをしてくれたりして交流することができた。来年度は学校行事へ出向き、もっと交流の機会を増やしていきたい。

イ. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	270	279	270	279	279	270	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
延べ人数	279	263	260	279	252	253	269.42

(8) 障がい者デイサービス 根城の家

ア. 総評 主任サービス管理責任者 須藤由紀

利用者の生活支援

サービス利用計画の内容やご本人、ご家族の意向を踏まえ個別支援計画書を作成し支援を行っている。生活介護を含め様々な福祉サービスを利用する事で、在宅生活の継続や心身の健康状態を保つことができている。ご本人やご家族のニーズに対し、相談支援事業所等との情報共有、連携により生活全体として捉え取り組んでいる。今後も利用者様やご家族の声、意向を尊重しながら支援を行っていく。

利用者の余暇活動・行事・機能訓練の充実

リハビリ実施計画書に基づき理学療法士を中心として、日常生活動作や疼痛緩和等ご本人、ご家族の意向に沿った内容を実施している。都度意向の確認を行いながら、内容を検討し実施することで満足度向上に努めている。余暇活動については、個々に応じた内容を実施し、楽しみや充実感等を得ることができるよう努めている。

利用者の受け入れ

利用者数は月別利用者数参照。令和7年度は介護保険への移行や長期の入院、利用変更の事情により3名の方が利用契約終了となった。今後も加齢や進行性の疾患等、ご家族の介護力や医療的ニーズの変化がみられる可能性が高いため、事業所単体ではなく、本部と連携しながら様々な状況に応じた対応ができるよう努める。

職場環境の整備

働きやすい環境や人を育てられる人材育成として、個々の思いや声等を聴きながら、相互理解の促進、業務内容やケア方法の改善、再確認等に努めている。利用者様においては統一したケア等の対応ができるよう情報共有の徹底を行っている。

相手に伝わるようきちんと言葉にし、相手に伝える事、相手に伝えようと努めることを意識し不安等の解消に向けて取り組んでいる。

イ. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	317	325	310	331	310	301	
1日平均	12.1	13.0	13.5	13.2	12.9	12.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
延べ人数	305	260	268	272	275	293	275.3
1日平均	12.2	11.3	11.3	11.5	11.5	12.2	12.3

(9) 障がい者デイサービス リアンジュ

ア. 総評 所長 橋本浩幸

利用者の生活支援

在宅生活における利用者様の支援ニーズを確認し、支援計画や対応の内容につなげることが出来ている。直近の体調や家庭等の状況の相談連絡に対し、柔軟に応じながら検討して取り組んでいる。

日中活動の充実

余暇活動や行事など、日中活動のプログラムの充実を図るべく、併設事業所との協力を得て進めている。者・児合同でのリアンジュ祭りの開催は、ご家族同士の交流の機会にもなっている。下半期は特に法人内の事業所交流の機会を増やすことができています。行事訪問やポスター作製等新たなやりがいを発見できた期間となっている。交流を持ちながら楽しむことで、満足度を高めていきたい。今後も活気ある運営を目指していきたい。

利用者数の増加

全体としては昨年度よりも増加となっている。利用者の背景を考慮し、速やかな相談支援を行うことで、利用が増えている。定員に対し空きの状態があるが、利用者様の支援度合いを考慮して、必要なケアに応じられる内容で受け入れを進めていく。

職場環境の整備

法人全体としての軸人材の育成として、新たな管理者体制で運営を進めている。これまでの職員の支えがある中で、新たな環境での学びが現場の業務内容に良い効果をもたらしている。新採用職員も増え、職員育成の取り組みが強化されている。様々な変化の中でも基本となるべく土台がある事で、サービスの継続が図られている。全体としての体制強化と現場レベルでの質の向上に継続して取り組んでいく。働きやすさとやりがいを感じられる職場として、職員が互いの長所をリスペクトできるコミュニケーションが取れるよう、環境づくりを継続していく。

イ. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	300	308	279	289	264	281	
1日平均	12.5	12.3	12.1	11.6	11	11.7	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
延べ人数	268	282	302	272	251	273	260.1
1日平均	11.7	12.3	13.1	11.8	11.4	11.4	11.9

(10) 多機能型通所支援事業所 リアンジュ

ア. 総評 児童発達支援管理責任者 神山智美

今年度は前年度と比較し、延べ7人、平均として0.3下回ったが、短期入所を定期利用する児童の増加、状態変化に伴う入院が必要となる児童が若干名いたが、キャンセル待ち利用を希望する児童の利用を積極的に受け入れたことで前年度と大差なく過ごすことができたのではないかと考える。今年度は卒業生が居らず、利用状況も大きな変動はなし。利用曜日の追加希望もあり既に追加利用となった児童や今後、状況に応じて対応していく予定の児童も数名いる状況。適宜、関係機関と情報共有を図りながら前向きに利用を検討していく。療育活動では、法人内事業所との関りを深められるような行事に取り組むことで児童の活動の場所が広がり根拠のある創作活動を行うことが出来た。今後も社会資源の一つとして法人内事業所で利用児童が活躍する場面を設けていきたい。今後も、体調面を考慮しながら個々に応じた療育支援の充実を図り、児童が活動的に過ごせる場であるよう安心、安全に配慮していくと共に、本人・保護者のニーズを把握しつつ、サービス向上に努めていきたい。

イ. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	206	201	185	214	235	208	
1日平均	8.6	7.4	7.4	7.9	9.0	8.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
延べ人数	224	191	225	218	209	202	209
1日平均	8.3	7.3	9.0	8.4	8.7	7.8	8.1

2. 上北地域福祉事業部門

(1) 特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ

ア. 総評 統括主任 池田哲人

電子カルテ、インカムでケア記録の音声入力、全床センサーマット設置などの ICT 機器の導入や、特定技能生 2 名採用するなど新たな取り組みを実施した 1 年だった。特定技能生の受入れにより、職員自身の介護接遇や介護技術などを振り返る機会になり、利用者・職員ともに良い刺激となっている。また ICT 化により記録にかかっていた時間がなくなり、利用者と直接関わる時間が増え、利用者とゆっくり会話する機会も増えてきた。

(ア) 介護老人福祉施設

㊦相談 生活相談員 高田由紀子

1 年を通して入退所件数が 17 件ずつとなった。退所者が最多で 3 件の月があったが、その後の入所の 2 件を同敷地内の事業所から早期に迎え、空白の期間を短くすることが出来た。ベッド稼働率も 98%以上を維持することが出来、安定した 1 年だったと言える。来年度も多くの利用者様をお迎え出来るよう職員と情報共有しながら進めていきたい。

ICT 機器が導入され、相談員としても多職種で情報共有できるような介護ソフトへの入力を意識してきた。今後も利用者様、ご家族へきちんと届く活用の仕方をしていきたい。

㊧介護・ケアマネジメント・機能訓練 統括主任 池田哲人

特定技能生 2 名採用となり、OJT を通じて自分自身の接遇や介護技術の振り返りができた。指導を担当するスタッフと一緒に「やさしい日本語」を学び、指導育成に活用することができた。利用者からも一生懸命仕事していて対応も優しいとの声をいただいている。

電子カルテの操作や音声入力など、スタッフ個々が工夫して自発的に効率化を図るようになり前向きな姿勢で取り組んでいた。

㊨看護 看護師長 菊池真夕子

施設内での感染拡大はなく、感染症対策の見直しや職員の健康管理・自宅での感染対策が出来ていた。短期入所が独立型から併設型となり、看護師は特養とコレクティブハウス、グループホームと約 100 名の利用者の管理をすることとなり、情報伝達などを通して、利用者の特性の把握に努めた。施設での看取り件数は 15 名、コレクティブハウス短期入所の看取りは 3 名、グループホームの看取り件数は 2 名だった。特養への入居は治療を希望されず、ベストサポータティブケア

(BSC) での看取り希望の方も多く、入居期間が短いのが特徴であった。ロングタームケアが特養の特徴であったが、認知症のため病院での治療が出来ないもしくは、入院が出来ない超高齢者も増加する傾向でもあるため、利用者・家族との早期の信頼関係構築が必要となる。

㊤給食 管理栄養士 舩舘まゆみ

今年度は大きな決断をした年となった。人員不足により、調理済み食品を使つての献立が増え、変わりご飯や麺類、手作りおやつを提供ができない状態であった。人員の確保は今後も困難ではないかという事から、令和 8 年 2 月より「完全調理済み食品（クックチル）」を使つての食事提供となった。

このことにより、「刻み食」という嚥下食には適していない食事形態の方も多かったが、「ソフト食」が提供できるようになった。またこの数年提供できていなかったお刺身が提供できるようになった。ちらし寿しの上にお刺身が添えてある、決して多い量ではないが、喜ばれている利用者の声が聞かれている。ちらし寿し、炊き込みご飯、麺類やお刺身などが献立に組み込まれているので、利用者の楽しみとなる食事となっているのではないかと。栄養成分はたんぱく質や食物繊維、微量元素などが導入前よりは高くなっている。

課題としては、作業工程の見直しが必要でスムーズに提供できていない献立もあり、調理作業の見直し、どの献立も調理員全員ができるようになる事が必要。新たな業務マニュアル、食品衛生マニュアルも必要となった。これから、業務の改善、調理作業の見直し、嗜好調査実施等、改善できるように検討していきたい。

(イ) コレクティブハウス彩香園アルテリーベ 生活相談員 千葉正大

今年度 7 月から、単独型から併設型へ体制が変更となり、特養との情報共有等の連携が円滑に行う事が出来ている。それに伴い、特養と同等のサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。

新規の定期利用の方の受入れを積極的に行い、最新のテクノロジーを活用して、利用者、家族が安心して利用していただけるよう、質の高いサービス提供を目指し取り組んでいきたい。

イ. 利用者状況

(ア) 介護老人福祉施設

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

	男	女	計
在籍者数	16	50	66
平均介護度	4.6	4.3	4.3
平均年齢	82.9	91.1	89.1

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

	男	女	計
入所数	5	12	17
退所数	5	12	17
稼働率	98.9%		

(イ) 空床型短期入所生活介護

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

	男	女	計
利用日数	0	0	0

(ウ) コレクティブハウス彩香園アルテリーベ (短期入所生活介護)

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用者数	27	29	28	29	27	28
利用延日数	496	532	496	536	528	513
稼働率 (%)	87.0	90.3	87.0	91.0	89.6	90.0

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	31	34	32	28	32	32
利用延日数	479	503	511	499	489	492
稼働率 (%)	81.3	88.2	86.8	84.7	91.9	91.4

(2) デイサービスセンターサンポエム

ア. 総評 副所長兼生活相談員 安村秀一

昨年同様、厳しい事業運営となった。一年を通しての新規利用者は 35 件、利用日の追加等は 29 件、利用終了が 30 件となっている。新規の獲得は一定数確保することができたが、利用回数が多い利用者や介護度が高い利用者が施設入所等で利用終了することにより、全体的な回数が落ち込む結果となった。

地域の現状としては、前年度同様、同居家族の就労形態の変化の為、重度化した利用者は在宅での生活継続より施設サービスへの移行が顕著にみられていた。また、入院の件数も昨年よりも増加していた。

サービス提供については、利用者年齢の上昇等もあり、日常生活動作の介助等が必要な方が増加した傾向にあった。利用者のアクシデント等は前年より減少することができ、危険な場所や時間帯での見守りの徹底など実施することができたと思う。

イ. 利用者状況

利用回数

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

	支 1	支 2	介 1	介 2	介 3	介 4	介 5	計
R7.4	23	135	324	231	79	22	6	820
R7.5	26	148	357	230	87	17	2	867
R7.6	23	130	343	250	85	8	5	844
R7.7	21	137	365	276	113	3	3	918
R7.8	23	124	349	256	94	16	0	862
R7.9	21	134	363	249	129	17	0	913
R7.10	21	134	356	267	125	10	0	913
R7.11	16	120	366	251	64	16	0	833
R7.12	25	119	375	275	65	18	0	877
R8.1	24	120	379	272	41	9	0	845
R8.2	24	98	358	260	38	7	0	785
R8.3	25	101	377	263	49	8	0	823
平均利用件数					28.21			

(3) 彩香園アルテリーベ 居宅介護支援事業所

ア. 総評 所長 作田由美子

前年度に引き続き、契約期間の短い方が多かったため、最終的に利用者の増加、増益に至らなかった。新規契約が月平均 3.33 件、契約終了者が月平均 4.75 件。介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務委託ケースは 18 件を維持した。介護保険サービスと障がいサービスを併用するケースを 13 件受け入れたことにより、ケアマネジメントの個別性を痛感し、介護保険のご利用者にも多大に影響したと感ずる。

生産性の向上、ICT 化に於いては迅速に進めることができなかったが、PC メールの使用が常態化し、後半にケアプランデータ連携システムの取り組みが始まった。次年度に向けた、PDF データの活用による会議、研修等の記録整備の計画が具体的になり、少しずつ前進できている。

新年度は、東北町委託地域支援事業等を通して地域に密着した事業所を目指し、特定事業所として困難事例等に積極的に関わることでご利用者の獲得と増益を目指す。

イ. 利用者状況

利用人数

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	計
R7.4	60	35	23	11	4	133
R7.5	62	36	25	10	4	137
R7.6	57	37	27	11	4	136
R7.7	58	38	24	11	5	136
R7.8	58	38	23	10	5	134
R7.9	60	35	24	10	5	134
R7.10	60	38	26	13	8	145
R7.11	62	37	25	14	8	146
R7.12	58	42	23	11	3	141
R8.1	58	41	20	11	7	137
R8.2	59	43	18	13	7	140
R8.3	60	40	18	11	4	133

(4) グループホーム 青い空

ア. 総評 所長 和田吉彦

一人ひとりの気持ちを大切に、家事活動や軽作業を通じて入居者一人一人が主体性を持って生活できる様に支援を行った。

医療職との情報交換を密に行い入居者の体調管理に努めた結果、体調不良時には迅速に対応できた。

運営推進会議を通して事業の内容や運営推進会議委員との情報交換ができ、地域との交流を円滑に行うことができた。

認知症サポーター講座への講師派遣や消防団活動の参加協力を行った。

ICT 機器の導入により業務の効率化が進んだ。

職員一人一人の目標達成計画を作成し目標達成に向けた研修を実施できた。

イ. 利用者状況

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

	男	女	計
在籍者数	3	15	18
平均介護度	2.3	3.3	2.8
平均年齢	90.2	97.5	93.8

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

	男	女	計
入所数	1	4	5
退所数	1	4	5
稼働率	99.3%		

IX. 活動報告

1. 行動（行事）報告

（1）八戸地域福祉事業部門

月	八太郎山療護園	希望ヶ丘	八太郎山の家
4	お花見	お花見会（外出）	お花見
5	外食・買い物外出	端午の節句	外食行事
6	おやつ作り	運動会	外食行事
7	七夕祭り	七夕	テイクアウト行事
8		夏のお楽しみ会、親子レク	八戸三社大祭見学
9	おやつ作り	おたのしみ BBQ	
10	希望ヶ丘合同秋祭り	ハロウィン祭り	紅葉ドライブ
11		秋のお楽しみ会（外出） 療護園・希望ヶ丘合同秋祭り	外食行事
12	クリスマス会	クリスマス会	クリスマス会、餅つき会
1	新年会・鍋会食	新年会	新年会
2		節分	節分
3		ひなまつり	ひなまつり、運営懇談会
他		誕生会(誕生日に近い日)	

月	根城の家	グループホーム桔梗野の家	リアンジュ
4	イースター行事	花見ドライブ 誕生会	お花見ドライブ
5	端午の節句手作りおやつ	八食センター（買い物と外食）誕生会	ランチ会
6	運動会	さくらんぼ狩り	買い物外出
7	デリバリー	バーベキュー（七夕） 誕生会	手作りおやつ
8	夏祭り	桔梗野地区祭り	納涼ドライブ 三社大祭見学
9	運動会	ぶどう狩り 敬老会 誕生会	ランチ会
10	ハロウィン	運動会 誕生会	ハロウィン キーホルダー制作 紅葉ドライブ
11	紅葉ドライブ	外食会&紅葉ドライブ 誕生会	紅葉ドライブ 八太郎山祭り
12	クリスマス会	クリスマス忘年会（地域・ご家族との交流）クリスマス会、誕生会、	クリスマス会
1	書初め	初詣&新年会	新年の集い・ランチ会 習字展覧
2	節分会	節分	節分・えんぶり見学
3	ひな祭りおやつ作り	ひな祭り会（スイーツバイキング）	スイーツ会
他		オンブズマン来所 個別外出	

(2) 上北地域福祉事業部門

月	特別養護老人ホーム 彩香園アルテリーベ	彩香園アルテリーベ 居宅介護支援事業所 在宅介護支援センター	デイサービスセンター サンボエム
4	お花見ドライブ		お花見ドライブ
5	お茶の会	東北町委託事業 体力づくり教室	
6	和菓子の日 (どらやき)	東北町委託事業 認知症予防教室	
7	おやつバイキング	東北町委託事業 認知症予防教室	
8	物故者ご供養	東北町委託事業 体力づくり教室	
9	敬老会	東北町委託事業 体力づくり教室	敬老会
10	外食会	東北町委託事業 家族介護者教室	スポーツ週間 紅葉ドライブ
11	紙ひこうき大会	東北町委託事業 家族介護者交流事業	
12	クリスマス会	東北町委託事業 認知症予防教室	
1	新年会		手作りおやつ
2	豆まき会	東北町委託事業 体力づくり教室	節分
3	物故者ご供養	東北町委託事業 体力づくり教室	手作りおやつ
他	誕生会 (毎月)		誕生日会：毎月開催

月	グループホーム 青い空
4	お花見ドライブ おやつ作り
5	お花見ドライブ おやつ作り
6	家族交流会
7	買い物ドライブ おやつ作り
8	買い物ドライブ おやつ作り
9	敬老会（ホーム） 紅葉ドライブ
10	紅葉ドライブ おやつ作り
11	買い物ドライブ おやつ作り
12	忘年会
1	初詣 ドライブ
2	節分
3	ひな祭り
他	誕生会：都度開催

2. 設備修繕報告

(1) 八戸地域福祉事業部門

- ・居室系統給水加圧ポンプ取り換え
八太郎山療護園
- ・居室内装改修工事
八太郎山療護園
- ・業務用洗濯機入れ替え
八太郎山療護園

(2) 上北地域福祉事業部門

- ・植栽剪定
特別養護老人ホーム彩香園アルテリーベ、デイサービスセンターサンポエム
- ・空調設備入替
通所、コレクティブハウス

3. 研修報告

(1) 八戸地域福祉事業部門

ア. 内部研修

月	内容	実施事業所
4	倫理及び法令遵守 入所者のプライバシー保護	全事業所
5	接遇・コミュニケーション	全事業所
6	食中毒 感染症対策	全事業所
	吐物処理シミュレーション	
7	感染まん延に備えて発生時対応シミュレーション	全事業所
8	障害の理解	全事業所
9	虐待防止・身体拘束の適正化	全事業所
10	調理実習（衛生管理）	療護園
	非常災害時の対応（訓練）	全事業所
	業務継続計画（BCP）の理解	
11	メンタルヘルス・ハラスメントの理解	全事業所
12	医療的ケア	全事業所
	救命救急対応・急変対応	
	看取りと看取りケアにおける精神的ケア	
1	腰痛予防	全事業所
2	リスクマネジメントの考え方	全事業所
	事故の発生、予防、再発防止	
3	認知症利用者の対応について	全事業所

イ. 外部研修

日程	研修内容
4	介護 ICT 体験フェア
5	
6	強度行動障がい支援者養成研修 社会福祉法人運営の基本対策セミナー 2025 年度「聴こえとことばの勉強会」 令和 7 年度八戸地域介護サービス協議会第 1 回研修会 アンガーマネジメントワークショップ 令和 7 年度青森 DWAT 員研修【基礎編】
7	令和 7 年度「障がい者就労サポーター養成講座」 令和 7 年度青森県喀痰吸引等研修 令和 7 年度自閉症支援セミナー 基礎コース 第 44 回青森県身体障害者施設職員研修会 東北ブロック虐待防止ネットワーク (TPRw) 産業保健研修会「女性特有の健康課題と事業場の対応ポイント」
8	サービス管理責任者更新研修 令和 7 年度子ども・家庭福祉担当職員セミナー 全国共通 WEB セミナー「現場のニーズに合った介護ロボットの見つけ方」 全国共通 WEB セミナー「災害時の介護現場の対応」
9	令和 7 年度青森県介護支援専門員専門研修 第 47 回全国身体障害者施設協議会研究大会 令和 7 年度青森 DWAT 員研修【実践編】
10	令和 7 年度「フットケア～高齢者の足を看る～」研修会 令和 7 年度青森県認知症介護実践研修（実践者研修） 令和 7 年度自閉症支援者セミナー 実践ワークショップ 令和 7 年度栄養・食育マネジメントセミナー 令和 7 年度労働災害対策及び感染症予防対策研修会
11	第 47 回東北ブロック身体障害者施設職員研修会 令和 7 年度青森県障がい者虐待防止・権利擁護研修会
12	
1	令和 7 年度青森県認知症対応型サービス事業管理者研修 令和 7 年度青森県看護協会 看護管理者連絡会議
2	
3	令和 8 年度診療報酬改定セミナー

(2) 上北地域福祉事業部門

ア. 内部研修

日程	内容	実施事業所
4	接遇・マナーについて 倫理・法令順守・接遇・プライバシー保護・高齢者虐待防止 緊急時の対応について 認知症について	特養 通所 G H
5	2年目職員研修（記録について） 事故防止・高齢者虐待防止、身体拘束廃止について 倫理と法令順守 OJT 研修 身体拘束排除・虐待防止について BCP 研修	全事業所 特養 居宅 通所 G H
6	2年目職員研修（2回目） 新任職員研修 感染症・食中毒について（BCP） 食中毒 個別機能訓練（機能維持・向上に向けて） 災害時対応について 倫理及び法令順守 食中毒・感染症・倫理・法令遵守について	全事業所 特養 居宅 通所 C H G H
7	新任職員フォローアップ研修 認知症について 緊急時・事故発生時の対応 心のケア、ハラスメント対策について 食中毒予防 身体拘束排除・虐待防止について	全事業所 特養 居宅 通所 C H G H
8	非常災害対策（BCP） BCP 事業継続計画・非常災害時の対応 緊急時の救急対応について 倫理及び法令遵守について 事故発生又は再発防止に関する研修 身体拘束排除に関する研修	特養 通所 C H G H
9	おむつの当て方、褥瘡予防のポジショニング 個人情報保護とプライバシー 身体拘束排除・虐待防止について 認知症及び認知症ケアについて	特養 居宅 G H C H

日程	内容	実施事業所
10	感染症・食中毒について 感染症(ノイウイルス・インフルエンザ)について 身体拘束・虐待防止について 接遇に関する研修 合同内部研修腰痛予防対策ヨガ	通所 訪看 CH GH 全事業所
11	感染症について (BCP) 送迎業務・安全運転・非常時緊急対応について 感染症予防 身体拘束排除・虐待防止について	特養 通所 CH GH
12	看取りケアについて 権利擁護・認知症ケア・コミュニケーションについて (意志決定支援への取り組み) 接遇について グループホームの看取りについて考える研修	特養 通所 CH GH
1	事故防止と高齢者虐待防止・身体拘束廃止 虐待 腰痛予防・福祉用具・ノーリフティングについて 身体拘束排除・虐待防止について プライバシー保護の取り組みについて	特養 居宅 通所 GH CH
2	倫理・法令順守・プライバシー保護 認知症 事故防止・リスクマネジメント・身体拘束排除について※感染症予防の為 書類配布 介護現場の事故を防ぐリスクマネジメント 自然災害対策訓練と BCP 見直し 安全運転講習 プライバシー保護の取り組みに関する研修	特養 居宅 通所 GH
3	非常災害対策 (BCP) 苦情処理 高齢者の自立支援について (状態別ケア・介護技術・口腔ケア) 事故発生又は再発防止について 身体拘束排除・虐待防止について	特養 居宅 通所 CH GH

イ. 外部研修

日程	研修内容
4	青森県介護支援専門員連絡会
5	東北町地域ケア会議
6	相談業務に関わる研修会 ICT 機器の活用の研修会 あおもり介護生産性向上推進セミナー 東北町地域密着型連絡会介護支援専門員等合同研修会 東北町高齢者等支援ネットワーク会議 東北町地域ケア会議
7	青森県介護支援専門員更新研修 地域密着型サービス外部評価調査員養成研修 青森県老人福祉施設大会 日本認知症グループホーム協会青森県支部ステップアップ研修 東北町地域ケア会議 東北町介護支援専門員連絡会 青森県のヤングケアラーを支援するために
8	令和 7 年度青森県感染対策特別研修会 安全運転管理者等講習 東北町地域ケア会議
9	東北町地域ケア会議 東北町福祉送迎運転者講習会
10	ノロウイルス食中毒予防講習会 東北町介護支援専門員連絡会 東北町地域ケア会議
11	東北町介護支援専門員研修会 令和 7 年度看取り研修
12	令和 7 年度老施協ハラスメント対策セミナー 東北町地域ケア会議・在宅医療介護関係者研修会 認定調査従事者現認研修
1	東北町地域ケア会議及び医療介護関係者研修会 東北町介護支援専門員連絡会
2	訪問リハビリと多職種連携研修会 給食施設栄養管理指導事業研修会
3	青森県老人福祉協会 社会福祉法人向けセミナー GH 協会 介護報酬セミナー 東北町地域密着型サービス事業者集団指導

X. その他の取組み報告

1. 苦情等報告

(1) 八戸地域福祉事業部門

- ア. 苦情件数 : 0 件
- イ. 相談件数 : 0 件
- ウ. ご意見

(2) 上北地域福祉事業部門

- ア. 苦情件数 : 0 件
- イ. 相談件数 : 0 件
- ウ. ご意見

2. 地域貢献・地域交流

(1) 八戸地域福祉事業部門

- ・市川地区子育てメイト応援サロン参加
- ・地区開催悠々サロン参加
- ・しあわせネットワーク（青森県社協）

(2) 上北地域福祉事業部門

- ・認知症サポーター養成講座講師派遣（東北小学校、上北小学校、甲地小学校）
- ・認知症サポーターフォローアップ研修、徘徊搜索訓練講師派遣（上北中学校、東北中学校）
- ・東北中学校 3 年生職場体験受け入れ
- ・八戸学院短期大学 2 年生、1 年生 介護福祉士実習受け入れ
- ・学生ボランティア（三本木高校 1 年生）2 名受け入れ

XI. 健康管理報告

1. 職員福利厚生

(1) 健康診断

療護園入居者健康診断 令和7年6月、11月

特養入居者健康診断 令和7年6月

特養・GH・CH入居者 結核検診 令和7年6月

八戸地域職員健康診断 令和7年9月

上北地域職員ストレスチェック 令和7年4月

上北地域職員腰痛検査 令和7年5月

上北地域職員健康診断 令和7年6月

八戸地域夜勤従事者健康診断（腰痛検査含む） 令和8年3月

上北地域夜勤従事者健康診断 令和7年12月

(2) 予防接種

療護園・山の家・GH入居者 インフルエンザワクチン予防接種 令和7年11月

特養・GH・CH入居者 インフルエンザワクチン予防接種 令和7年11月

八戸地域職員インフルエンザワクチン予防接種 令和7年11月

上北地域職員インフルエンザワクチン予防接種 令和7年11月

療護園・山の家・GH入居者 コロナワクチン予防接種 国・県の指針により実施

特養・GH・CH入居者 コロナワクチン予防接種 国・県の指針により実施